



No.97 2010・9・15

ISHIKAWA-KEN HISTORY MUSEUM

発行 石川県立歴史博物館
〒920-0963 金沢市出羽町3番1号
TEL.076(262)3236 FAX.076(262)1836
http://www.pref.ishikawa.jp/muse/rekihaku/



ISHIKAWA-KEN
HISTORY
MUSEUM

れ
き
は
く

秋季特別展

徳川将軍家と加賀藩

—姫君たちの輝き—



蝙蝠扇（朱塗緑地卯の花垣時鳥・三日月金銀彩）
和宮（静寛院宮）所用 徳川記念財団蔵

会 期 9月23日(木・祝)～11月3日(水・祝)
会期中無休

会 場 第1特別展示室
開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
入館料 一般 850円(680円)
大学生 700円(560円)
高校生以下無料/65歳以上680円
()内は20名以上の団体料金

主 催 石川県立歴史博物館
共 催 北國新聞社
特別協力 財団法人 徳川記念財団
後 援 (株)金沢放送局 北陸放送 石川テレビ放送 テレビ金沢
北陸朝日放送 金沢ケーブルテレビネット エフエム石川
ラジオかなざわ ラジオこまつ ラジオななほ

講演会 <聴講無料>

日 時 9月23日(木・祝) 午後2時～
演 題 ご当主対談「徳川家と前田家」
講 師 徳川恒孝氏(徳川宗家第18代当主)
前田利祐氏(前田家第18代当主)
会 場 石川県立美術館ホール
当日12時30分より石川県立美術館ホール前にて、入場整理券を発行(先着順)
当館に隣接する施設が会場となりますので、ご注意ください。
お問い合わせは歴史博物館(076-262-3236)へお願いいたします。
会場へは公共交通機関をご利用下さい。

関連講座(れきはくゼミナール)

日 時 10月16日(土) 午後2時～
演 題 徳川将軍家と加賀藩
担 当 北 春千代(当館学芸主幹)
会 場 当館学習ホール
申込不要・聴講無料・展覧会観覧の場合は入館料が必要です。

ギャラリートーク

日 時 9月25日(土) 午前11時～
10月9日(土) 午後2時～
10月30日(土) 午後2時～
担 当 北 春千代(当館学芸主幹)
会 場 第1特別展示室
入館料が必要です。

【主な展示資料】

国宝 剣銘吉光清泰院持参品 白山比咩神社蔵
出品期間十月二十五日〜十一月三日
菊流水蒔絵薰箱 清泰院遺愛品 個人蔵

三、溶姫と前田斉泰

溶姫は、加賀藩十三代藩主前田斉泰の正室です。
文化十年（一八一三）、十一代將軍徳川家斉の二十
一女として生まれました。文政十年（一八二七）、
借（譜）子と称しました。

文政六年（一八二三）、斉泰との縁組が決まり、
同十年（一八二七）、加賀藩本郷邸に豪華な行列を
調え入輿しました。このとき溶姫を迎えるため藩邸
に建てられた御守殿の門が、現在の東京大学の赤門
です。

天保元年（一八三〇）、後の十四代加賀藩主とな
る慶寧を産み、ほか釣次郎、利順（喬松丸、後の鳥
取藩主池田慶栄）を出産しました。

文久三年（一八六三）、金沢に來ましたが、元治
元年（一八六四）、江戸に赴き禁門の変に無断で退
京した慶寧の助命を嘆願しました。慶応四年（明治
元、一八六八）、再び金沢に移りましたが、二ヶ月
後の五月朔日、五十六歳で没しました。法号を景徳
院といたしました。



単衣 紫紹地流水芦雁模様
溶姫着用 東京国立博物館蔵

激動の幕末にあつて、加賀藩と江戸幕府との間の
立場に生きた人です。

【主な展示資料】

黒塗菱紋に若松唐草散蒔絵化粧道具 溶姫所用
個人蔵
単衣 紫紹地流水芦雁模様 溶姫着用
東京国立博物館蔵

四、篤姫と和宮の時代

篤姫は、十三代將軍
徳川家定の御台所（將
軍の正室）です。天保
六年（一八三五）、薩
摩藩主島津家の一門で
ある今和泉島津家の忠
剛の娘に生れました。

幼名を一といひます。嘉永六年（一八五三）、本家
の島津斉彬の養女となり、篤子と称しました。安政
三年（一八五六）、右大臣近衛忠熙の養女となり、
敬子、篤君と称し、家定と結婚。同五年（一八五八）、
家定没後、落飾して天璋院の号を得ました。



徳川家定遺愛品
徳川記念財団蔵
岩に鷹棚鋳



雑道具 貝桶・行器（黒塗松唐草牡丹紋散
蒔絵） 篤姫（敬子 天璋院）所用

戊辰戦争時には静
寛院宮とともに徳川
家救解を朝廷に嘆願
し、家名保全と江戸
総攻撃回避に貢献し
ました。以後、宗家
を相続した十六代家
達の訓育に専念し、
徳川宗家再興に尽力
しました。明治十六
年（一八八三）十一
月二十日、四十九歳

で死去しました。

和宮は、十四代將軍家茂の御台所（將軍の正室）
です。弘化三年（一八四六）、仁孝天皇の第八皇女
に生れ、和宮の名を贈られました。文久元年（一八
六一）、内親王宣下をつけ、親子と称しました。翌
年に家茂と結婚。慶応二年（一八六六）、家茂死没
後、薙髪して静寛院宮と称しました。戊辰戦争時に
は天璋院とともに徳川家救解を朝廷に嘆願し、家名
保全に貢献しました。

【主な展示資料】

天璋院像 川村清雄筆
薩州桜島真景図 敬子（天璋院）所用
柄鏡（菱牡丹紋）・鏡箱（溜塗菱牡丹紋散蒔絵）
敬子（天璋院）所用

黒塗桜唐草蒔絵貝桶 伝和宮（静寛院宮）所用
打掛（白綾子地流水菊牡丹模様染織）
伝和宮（静寛院宮）着用
旅櫛箱（村梨子地葉菊紋散蒔絵）
和宮（静寛院宮）所用
以上はすべて徳川記念財団蔵

【主な展示資料】

五、幕末から明治へ
十五代徳川慶喜像
版籍奉還の言上の儀に付被聞食候書付
銀細工 花車・花

以上はすべて徳川記念財団蔵
この機会に是非鑑賞賜れば幸いです。

（学芸主幹 北 春千代）

貸出中の館藏品

他の施設でも見られる歴博の貴重資料

歴博の館蔵資料は総数約十六万点にも及びますが、その一部は、県内外を問わず、他館の展覧会に貸し出されることとが少なくありません。また放送局や出版社へのボジフィルムなどの貸し出しも、よく行われています。展覧会や催し物などに比べるとあまり知られていない業務ですが、これも博物館の重要な仕事の一つなのです。

・「小宮山家文書」(石川県指定文化財)

前田利家朱印状、前田安勝黒印状、浅野長政書状、長束正家書状、大谷吉継書状ほか

計一件十五点

特別展「近世敦賀の幕開け〜吉継の治めた湊町〜」

九月十八日(土)〜十一月十四日(日)

会場：敦賀市立博物館

(福井県敦賀市・〇七五〇 一五 七〇三三)

・「甕形土器 加賀市柴山出村遺跡出土」
・「本阿弥光悦書状 長九宛」

計一点

企画展「加越能の美術

縄文から江戸時代までの名品」

九月十一日(土)〜十月二十四日(日)

会場：石川県立美術館

(金沢市・〇七六 一三二 七五八〇)



甕形土器



長束正家書状



前田利家朱印状



本阿弥光悦書状 長九宛



前田安勝黒印状

主な刊行物のご案内

(税込定価)

石川県立歴史博物館展示案内	一	〇〇〇円
石川県立歴史博物館蔵品目録	三	五〇〇円
モダンの調へ 蓄音機	一	〇〇〇円
太子信仰と北陸 聖徳太子へのあこがれ	一	二〇〇円
永光寺の名宝	一	二〇〇円
紀尾井町事件 武士の近代と地域社会	一	七〇〇円
祝い絵 ディスブレイの民俗誌	一	〇〇〇円
能楽 加賀宝生の世界	一	二〇〇円
利家とまつが生きた時代 戦い・くらし・女たち	一	九〇〇円
景勝をめぐる いしかわの景観史	一	二〇〇円
いしかわの歌仙絵馬	一	四〇〇円
風俗画伯 巖如春 都市の記憶を描く	一	四〇〇円
源平合戦と北陸 義経伝説を育んだふるさと	一	六〇〇円
加賀百万石への道 戦国から太平へ	一	二〇〇円
昭和ワンダーランド モノでたどる戦後	一	〇〇〇円
石川のお宝史 名宝から文化財へ	一	三〇〇円
弥生ムラの風景 越のクニ生み・境界・交流	一	二〇〇円
御用絵師梅田九栄と俳諧 芭蕉の教えを守った男	一	三〇〇円
肖像画にみる加賀藩の人々	一	四〇〇円
×OSOB百・華・線・乱 丸紅所蔵衣裳名品展	一	五〇〇円
春日懐紙・春日本万葉集とふるさとの文芸	一	五〇〇円
本願寺展 世界遺産の歴史と至宝	二	三〇〇円
シャルジャ、砂漠と海の文明交流 アラビアの歴史遺産と文化	一	三〇〇円
トキ舞う空へ 鳥と人の文化史	一	三〇〇円
徳川将軍家と加賀藩 最新刊	一	〇〇〇円



総合カウンターで販売中。定価はすべて税込。郵送ご希望の方は、当館へ直接お問い合わせいただくか、当館ホームページ「刊行物案内(図録等)」をご覧ください。(電話〇七六 二六二 一三三六)

中学生の「わくワーク(work)」職業体験

金沢市内の中学生による職業体験、「わくワーク」が今年も行われました。六月末から七月にかけて、兼六中学校(六名)、額中学校(六名)、紫錦台中学校(六名)の三校の生徒たちが、当館へやってきました。それぞれ三日間という短い期間でしたが、人生で初めて学校を離れた「お仕事体験」に程よく緊張しながら、いろいろな作業を行いました。普段は入ることのできない、特別収蔵庫にも案内され、少々興奮気味に体験を終えていました。



トキへの熱い思いを語る 村本義雄さんの展示ツアー

夏季特別展の開催に合わせ、七月十八日と八月一日に村本義雄さん(日本中国朱鷺保護協会名誉会長)による展示ツアー「トキ、命の軌跡」が行われました。トキ保護運動の第一人者である村本さんの熱心なお話し振りに、会場となった第四展示室は、暑さもあつて相当な熱気に包まれていました。村本さんの、まさに人生そのものを語る内容には迫力があふれ、聴くものを引きつける力が感じられました。

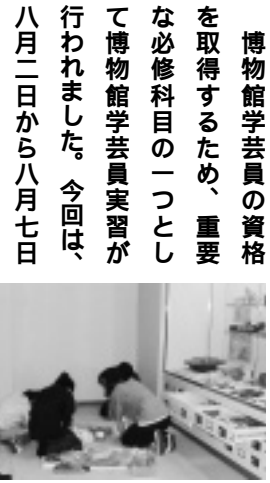


催事日録

ちようど、子どもたちの夏休みに当たる期間に開催されていた夏季特別展、「トキ舞う空へ 鳥と人の文化史」が八月三十一日、好評のうちに終了しました。トキをテーマにした第一会場では、体験型の展示に多くの子供たちが集まり、鳥と人のかかわりの歴史について、大量の資料を展示した第二会場も興味深い内容が注目されました。会期中のさまざまな関連イベントも反響が大きく、石川の「トキブーム」が実感されました。



博物館学芸員の資格を取得するため、重要な必修科目の一つとして博物館学芸員実習が行われました。今回は、八月二日から八月七日までの六日間にわたって各地の大学から九名の学生が参加。大変暑い日が続いていましたが、資料整理、写真撮影、収蔵庫整理、展示方法などの現場実習に積極的に取り組んでいました。未来の学芸員を目指した、若さと情熱が感じられた六日間でありました。



夏季特別展「トキ舞う空へ」終了

学芸員目指して 博物館実習



常設展示ワンポイント解説



れきはくゼミナール

れきはくゼミナール：学習ホール
 受講料：常設展示ワンポイント解説：展示室内行事につき、入館料が必要(十月一日は屋外行事のため無料)
 れきはくゼミナール：無料
 申し込み：不要 当日受付へお申し出下さい。

開講時間：午後2時
 会場：常設展示ワンポイント解説：各関係展示室(十月一日は屋外行事となるので、正面玄関前にお集まり下さい。)

月日	行事	内容
10/1(金)	常設展示ワンポイント解説	本多の森 屋外展示ツアー (普及課長 前田武輝)
10/16(土)	れきはくゼミナール	徳川将軍家と加賀藩 (学芸主任 北 春千代)
11/12(金)	常設展示ワンポイント解説	海辺の風景 (学芸専門員 大門 哲)
12/3(金)	常設展示ワンポイント解説	金沢商人と江戸時代のお金 (資料課長 濱岡伸也)
12/18(土)	れきはくゼミナール	布と手わざの文化史 押絵・細工物 (学芸主任 大井理恵)

行事日程(10~12月)

れきはく
トリヴィア

暴風雨の中で開業した金沢駅

巨大な総ガラス製「もてなしドーム」に重厚な木造「鼓門」…、県都金沢の玄関口ともいえるJR金沢駅は、近年大きく様変わりしました。この金沢駅の開業は明治三十一（一八九八）年といえますから、もう百十年以上も昔のこと。で、その当時の駅はどんな様子だったのか、それがよくわかる模型が第2展示室にあります。「ええつと、そんなんあつたあ？」という方は、たぶん隣の浅電ジオラマに目を奪われてしまったのでは？



金沢駅舎模型

明治二十六（一八九三）年四月から始まった北陸線建設工事（敦賀・富山間）は、同三十一年に金沢まで到達しました。当館の金沢駅模型は、昭和六十一年（一九八六）年十月の開館に合わせて製作されたのですが、完成までにはちよつとした苦労話があります。まず当時の建築図面が、金沢駅にも国鉄（当時）本社にも残されていなかったのです。これには困りましたが、それは意外にも、金沢市内のある老舗から寄



つたため、駅舎がどんな色だったのか分からず、こども頭を悩ませることに。これも鉄道に詳しい方の助言を得るなどして、どうかはぼ忠実な復元にまでたどり着きました。

さて、金沢駅開業日の明治三十一年四月一日には、盛大な記念式典が予定されていたのですが、大暴風雨のためあえなく中止。散々な初日でした。幸いにも翌日は晴天となり、大勢の人々が集まったようです。当時の新聞には、見物のついでに乗車する人々が多く待合室が満員になったとか、また列車の発車ごとに火花が放たれたことなど、前日のうつぶん晴らしのよくな盛況ぶりが伝えられています。



贈された資料の中に埋もれていました。図面には駅名が記されていないかったため、長い間金沢駅だとは気付かなかつたとのこと。これは古い駅の写真との照合で何とか判明。ところがこの図面、墨一色だ

トリヴィア＝雑学的な事柄や知識、豆知識

次回の展覧会

企画展 新春を祝う

1月4日（火）～2月6日（日）
第1特別展示室

館藏品の中から、新春を寿ぐ吉祥関係の資料についてご紹介します。



企画展 れきはくコレクション2010

2月19日（土）～3月21日（月・祝）
第1特別展示室

平成22年度に県民の皆様からご寄贈いただいた資料や、お預かりした資料を中心に、当館が系統的に収集している資料などを交えてご紹介します。

展示替え等による休館日（10～12月）

- 9月21日（火）・22日（水） 2日間
- 10月 休館日なし
- 11月4日（木）・5日（金） 2日間
- 12月28日（火）～31日（金） 4日間

本多の茶林から

夏季特別展では、石川、富山両県に残るトキの剥製五体を展示しました。通常は、羽根の「朱鷺色」が光るため、照明を暗くした展示室でごく短い期間しか公開しません。本展では、紫外線をほとんど出さないLED照明を使うことで、会期を通してご覧いただくことができます。五体のうち当館所蔵の「能里（のり）」は、本州最後の一羽として能登半島に六年間ひとりぼっちで暮らしていたトキです。今回は仲間を囲まれてひと夏を過ごすことができ、喜んでいただけるとは思いません。

さて、秋季特別展では一転、徳川将軍家から前田家に嫁いだ姫君たちの、華やかな世界をご紹介します。